



山登如

## 2021年度 付中通信第4号

# 生徒会の可能性

2021.6.9 (水)

高水高等学校附属中学校長 宮本 剛

本日、生徒総会が開催され、新年度の意気込みを生徒会長が語り、新しい執行部から委員会組織を前提にした取り組みが生徒に示されました。「世界一の学校にしたい」と立候補した役員もいるくらいですから、頼もしさを感じる生徒総会となりました。



「生徒会が元気で活躍している学校は、よい学校です」とかなり前から私は全校朝礼の場などで生徒に訴えてきました。また、生徒会の諸君に向かって「たかちゅう」のレジェンドになれ！と檄を飛ばしていた時期もありました。校長に就任以来、生徒会活動の可能性について、私が大きな期待を抱いてきた証しだと思います。しかし、私の中には可能性を引き出す具体的な方法論とか理想的な生徒会のあるべき姿が明確になっていたわけではありません。とにかく、やりたいことを臆さずできるような、精神的な環境を整えておきたかったと言ってよいと思います。

私は、中校長になる以前は、長年高校に籍を置き、クラス担任やクラブ顧問という立場で高校生を指導してきました。その過程で先に紹介したように文化祭の改革や学校のユネスコスクール化を実現したわけですが、その時同時に生徒の主体的協働的な活動を引き出す術を学んだと思います。生徒諸君と共にあることで獲得できた経験値でした。

ところが、その経験値はそのままでは使えないということが、校長になるとすぐにわかりました。当たり前のことですが、生徒を直接指導する任にはないからです。生

徒との関わりを封じた上でこの職は成り立っているのです。そうすると、私が生徒諸君を前に話すことは、生徒諸君を指導する教員に話をしていることにもなります。

「生徒会が元気で活躍している学校は、よい学校です」とは、「生徒会長以下、生徒会役員たちが活躍するための材料をいろいろと与えてやって

くれ」ということ、「たかちゅうのレジェンドになれ!」とは、「後輩たちが語り継ぐような高水中央に残る偉業を果たせるよう図ってくれ」ということを先生方をお願いしていることになります。

そうです。そのどちらもかなり難易度の高いことです。そんだけ言うならお手並み拝見させてくれと言われそうです。しかし、それも暗黙の了解で言わないし、私もこうやるんだなんて、しゃしゃり出ることもしません。モチベーションはずっと一緒に保ちながら、ちょっと前に進んだら、ちょっと達成できたら、わかりやすくほめ、もっとやる気を引き出す、そういうことかなと今の私は考えています。

しかしながら、生徒会活動は、学校教育の中では「学級活動」と「学校行事」と並び「特別活動」に位置付けられ、学校教育になくってはならない活動とされています。しかし、実際にこの活動が行えるのは授業外、つまり放課後が主な時間帯になります。中学校の放課後と言えば、まずクラブ活動が前面に押し出されるのが現状です。つまり、生徒会活動とクラブ活動は、時間的にバッティングする、両雄並び立たず。となりがちなのです。クラブ活動は運動クラブの場合、たいがい毎日活動する。生徒会活

動があるから休むとは言いにくい学校が多いと思います。運動部の規律は活動の中で保たれ、勝つための秘訣もそこに求めがちです。

生徒会の可能性は、したがって、口で言うより余程困難な制約を抱えている、と言わざるを得ません。

